

2022年8月10日

客室乗務員の飲酒に係る不適切な事案に関するコメント

航空連合
事務局長 酒井 雄介

- 2022年7月29日、客室乗務員の乗務前検査においてアルコールが検知され、運航規程違反となる不適切な事案が発生した。これを受け、国土交通省は8月9日、当該航空会社に対して、原因の調査と必要な再発防止策を報告するよう厳重注意をおこなったが、社会に対しては航空の安全に対する不安と不信を与えることとなった。
- 2018年10月以降に連続して発生した航空会社における飲酒に関わる不適切事案をふまえ、航空従事者の飲酒基準が検討され、客室乗務員等に対しては、2019年7月5日に「アルコール検査の義務化」、「アルコール教育の徹底等」、「アルコールが検知された場合や検査を不正に行った場合等について航空局への報告の義務化」が国土交通省により制定された。
- 制定された飲酒基準をふまえ、産業全体でアルコールによる不適切な事案を発生させないよう取り組みを徹底している中、今回の事案が発生したことは、産業に携わるすべての人が、航空の安全を揺るがす極めて重大な問題であると受け止め、「二度と同様の事象を起こさない」という強い決意のもと、飲酒基準を順守し、航空安全を堅持する必要がある。
- 航空連合は、安全運航の堅持が産業の存立基盤であるとの認識のもと、飲酒に係る不適切事案の根絶に取り組んできたが、今回の事案をふまえ、改めて働くものの視点で一層の改善を図りながら、個々人の意識改革と職場の風土改革に継続して取り組んでいく。

以上